

2022年上半期（1～6月）の木材輸入実績について

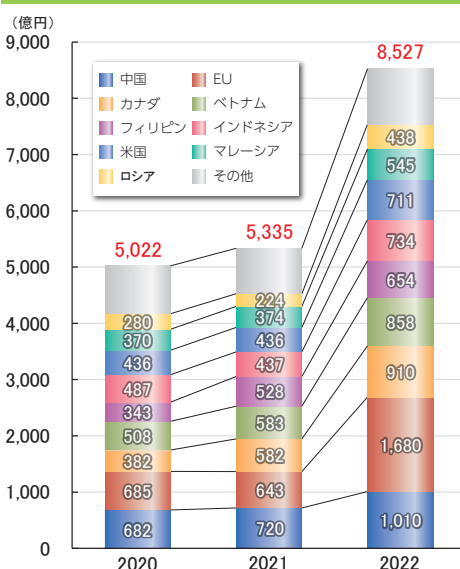
1 はじめに

2022年上半期（1～6月）は、昨年から続く、いわゆるウッドショックの影響で、木材価格が高値を維持する中、ロシアによるウクライナ侵攻に起因するG7各国をはじめとした各種制裁等により、世界の木材貿易が混乱し、我が国の木材輸入も大きな影響を受けました。本稿では、2022年上半期における木材輸入の実績を輸入額と品目別輸入量に着目して紹介します。

本年上半期の丸太輸入量は、前年同期比2%増の140・5万m³でした。国別に見ると、米国が同8%増の86・0万m³となった一方、カナダが同5%減の37・9万m³、NZは同5%減の13・6万m³となりました（図2）。カナダは、国内向け需要が優先されたことから対日輸出量が減少しました。また、NZは主要な輸先である中国の需要が減退したため生産量が減少し、日本への輸出货量も減少しました。

② 丸太

図1. 2020～2022年の上半期における木材輸入額



本年上半期（6カ月分、以下同）の木材輸入額は、前年同期比60%増の8,527億円でした。国別に見ると、EUが同161%増、ロシアが同96%増、インドネシアが同68%増、米国が同63%増、カナダが同56%増、ベトナムが同47%増、マレーシアが同46%増、中国が同40%増と軒並み増加しました（図1）。木材の産地価格が高止まりしているほか、円安等の影響で輸入額が急増しました。昨年は、EUに代わって、中国が木材輸入額第一位となりましたが、本年上半期は、再びEUが第一位となりました。

① 木材輸入額

2 2022年上半期の木材輸入実績

本年上半期の製材輸入量は、前年同期比21%増の271・0万m³でした。国別に見ると、カナダが同12%減の53・1万m³となった一方、EUが同34%増の136・5万m³、ロシアが同36%増の48・7万m³となりました（図2）。

各国の輸入量を月別に見ると、カナダは、昨年8月から本年2月まで減少傾向が続いた後、本年3月からは増減を繰り返しています（図3）。EUは昨年11月から本年1月まで増加傾向にありましたが、本年2月からは減少傾向となり、本年5月から再び増加傾向に転じました（図4）。ロシアは昨年8月から昨年12月まで増加傾向が続いた後、増減を繰り返し、4月に一旦大きく減少しましたが、5月以降は、再度増加傾向となっています（図5）。

③ 製材

図2. 2020～2022年の上半期における品目別木材輸入量

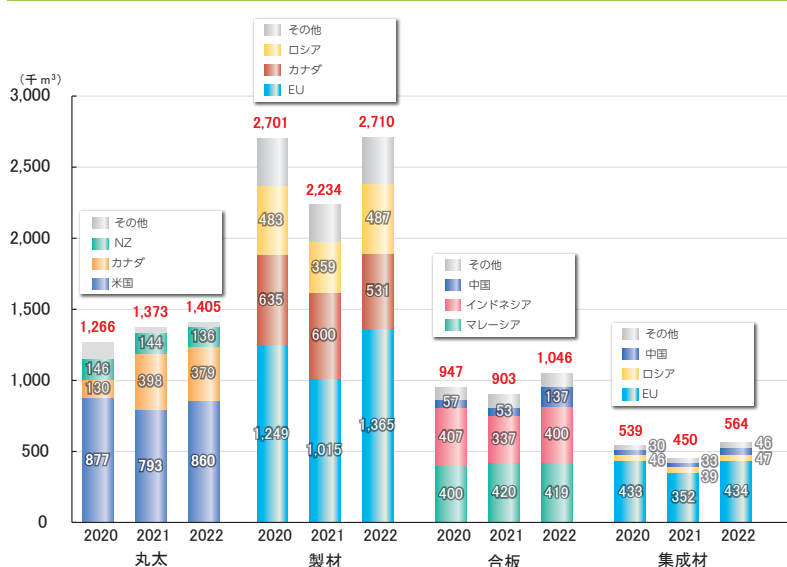


図5. ロシアからの製材輸入量

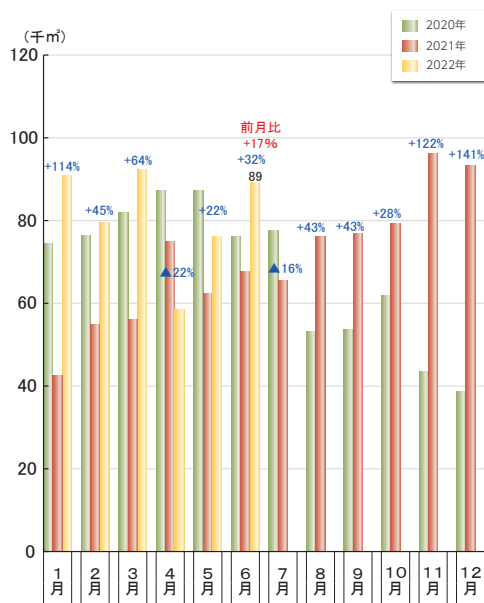


図4. EUからの月別製材輸入

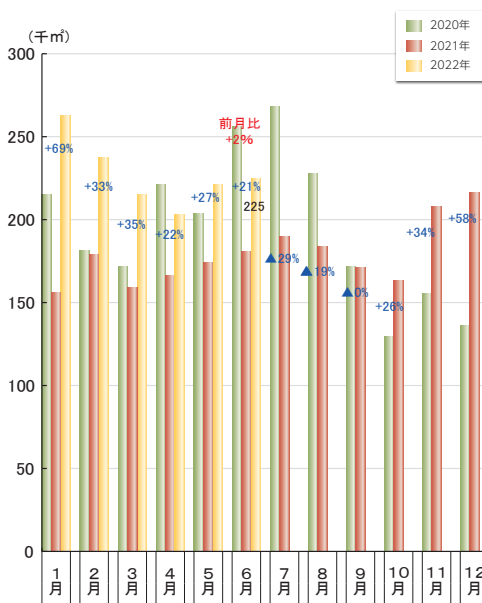
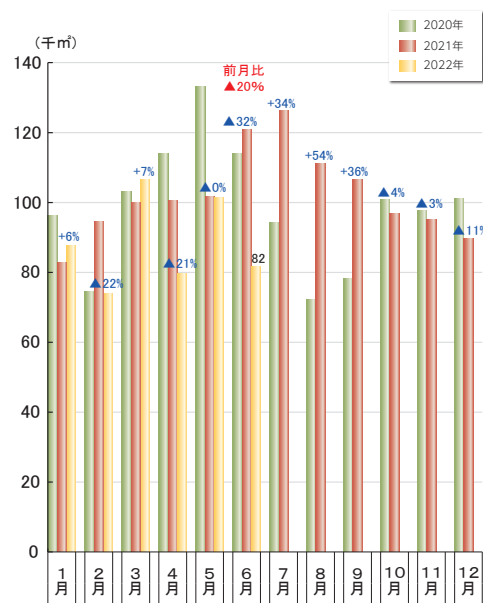


図3. カナダからの月別製材輸入量

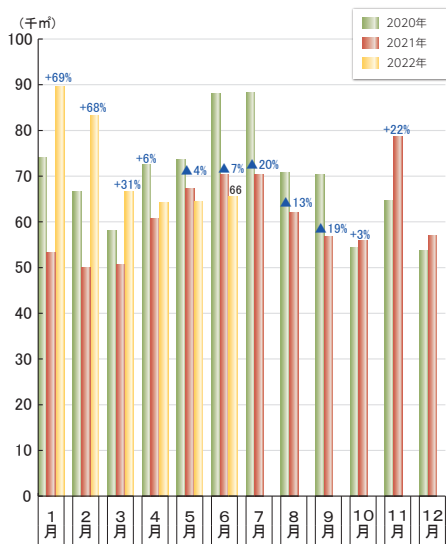


3

ロシアからの木材輸入を巡る情勢

ロシアは、本年3月に、我が国を含む「非友好国」に対して、チップ、丸太、単板の輸出を禁止しました。一方、我が国も4月に同品目の輸入を禁止し、ロシアへの最惠国待遇を撤回しました。また、6月には、針葉樹単

図6. EUからの月別集成材輸入量



本年上半期の集成材輸入量は、前年同期比25%増の56・4万㎡となりました。国別に見ると、EUが同23%増の43・4万㎡で、全体の77%を占めています（図2）。構造用集成材に限ると、輸入量計は同24%増の49・1万㎡、そのうちEUが同24%増の42・3万㎡となりました。EUからの輸入量を月別に見ると、1月以降減少傾向にありましたが、4月以降は概ね横ばいで推移しています（図6）。

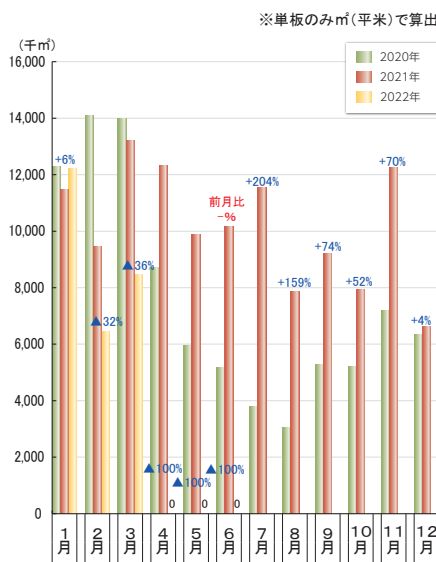
(5) 集成材

本年上半期の集成材輸入量は、前年同期比16%増の104・6万㎡でした。国別に見ると、マレーシアは同0%減の41・9万㎡となる一方、インドネシアは同19%増の40・0万㎡になりました。また、中国からの輸入が同158%増と急増しており、ベトナムを抜いて第3位の輸入相手国となりました（図2）。

(4) 合板

板のロシアへの輸出を禁止しました。このため、4月以降、ロシアからの単板輸入が止まっています。（図7）。

図7. ロシアからの単板輸入量



4 おわりに

昨年春に発生した、いわゆるウッドショックは、北米の住宅需要の高まりが要因の一つでした。今年上半期の米国の住宅着工戸数は、1月以降、170万戸前後（季節調整、年率換算値）で推移していましたが、住宅ローン金利の上昇などで、5月以降は150万戸台まで下落しています。また、北米の製材価格は、本年2月に、1,303ドル/m b f を記録しましたが、その後急落し、6月には578ドル/m b f となりました。また、ロシアによるウクライナ侵攻の動向も、世界の木材貿易への影響に不透明感を高めています。林野庁では、今後も引き続き、木材輸入の動向に関する情報を積極的に公表してまいります。

※毎月の木材輸入実績は、翌々月の下旬に林野庁ウェブサイトに掲載しておりますので、御活用下さい。
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/boutai/yunyuu/boueki.html>
 ※グラフは全て、財務省「貿易統計」から作成。

